

第 15 回国語分科会国語課題小委員会・議事録

平成 29 年 12 月 15 日（金）
15 時 00 分～16 時 55 分
文部科学省 5 階・5F5 会議室

〔出席者〕

（委員）沖森主査，森山副主査，秋山，石黒，入部，川瀬，塩田，鈴木，関根，
福田，やすみ，山元各委員（計 12 名）

（文部科学省・文化庁）鈴木国語調査官，武田国語調査官，小沢専門職ほか関係官

〔配布資料〕

- 1 第 14 回国語分科会国語課題小委員会・議事録（案）
- 2 分かり合うための言語コミュニケーション（仮題）（案）

〔参考資料〕

- 1 報告案Ⅲ－1 とⅢ－2（Q & A）対照表（案）
- 2 四つの要素の概念図案について
- 3 タイトル案について

〔机上配布資料〕

- 国語関係答申・建議集
- 国語関係告示・訓令集
- 国語分科会で今後取り組むべき課題について（報告）
- 国語に関する世論調査 分類別問い一覧（平成 28 年 12 月 6 日版）

〔経過概要〕

- 1 事務局から配布資料の確認が行われた。
- 2 前回の議事録（案）が確認された。
- 3 配布資料 2 「伝え合いのための言語コミュニケーション（仮題）（案）」，参考資料 1 及び 2 について説明があり，説明に対する質疑応答と意見交換が行われた。
- 4 参考資料 3 について説明があり，タイトルについて意見交換が行われた。
- 5 次回の国語課題小委員会について，平成 30 年 1 月 19 日（金）午後 3 時から 5 時まで旧文部省庁舎 2 階・文部科学省第 2 会議室で開催することが確認された。
- 6 質疑応答及び意見交換における各委員の発言等はおりのとおりである。

○沖森主査

コミュニケーションの在り方及び言葉遣いについての協議に入ります。配布資料 2 「分かり合うための言語コミュニケーション（仮題）（案）」を御覧いただきたいと思ひます。これも事前にお送りしてありますので，既にお読みいただひているかと思ひますが，先月 17 日の国語課題小委員会での御意見を基にして，主査打合せ会のメンバー及び事務局を中心に整理したものです。

まず事務局から，配布資料 2 について，前回からの変更点などについての概要の説明をお願いします。

○武田国語調査官

配布資料 2 について，全体のどの辺りが変更されたのかということだけ簡単にお話

しします。

まず1章から2章に掛けては、多少の加筆がありますが、あるいは細かいところの修正はいろいろとありますが、大きな変更はありません。

そして、3章に行きまして、「1 言語コミュニケーションの四つの要素」というところです。特に前回の御議論はここを中心になされたと思いますが、その御議論の内容に沿って大きく変更しております。

その後、Ⅲ-2のQ&Aですが、前回まで32の問いがありましたが、今回35になっております。ただ、そのうち幾つかはまだ埋まっていないところもあります。ほぼこの35ぐらいが最終的な形になるのではないかと考えております。以上です。

○沖森主査

事務局の説明について、何か直接の質問がありますでしょうか。意見は後ほど頂くことにいたしますので、まずは質問をお願いいたします。（→挙手なし。）

では、御意見を承りたいと思います。今回は、冒頭から内容を区切ってはいきませんが、読み上げることはせず、事務局から簡単に修正のポイントの説明していただいた後、質問も含めて意見交換をしていきたいと思います。

まず、「はじめに」から「I コミュニケーションに関する基本的な考え方」（1ページ～5ページ）までについて、まずは修正のポイントを説明していただき、その後、協議に移りたいと思います。

○武田国語調査官

この5ページまでについてですが、大きな変更としては、3ページに新たな◇の項目を一つ加えました。

その前に、まず2ページの二つ目「◇教育でも対話が重視されている」、ここについては、「主体的な、対話による学び合いを目指して」ということで、この間までは「深い」という言葉が入っていたんですが、それが学習指導要領の考え方と混同され、混乱するおそれがあるという御意見がありましたので、「主体的な、対話による学び合い」という形に変更しております。

それから、3ページ、上から三つ目「◇伝え合う内容そのものが問われる」のところでは、ここは読み上げます。「なお、コミュニケーションの在り方とは別に、伝え合う内容そのものの厚みや深さ、味わいなどが常に問われている面もある。伝え合う内容は、この報告が直接的な対象として取り上げるものではないが、その充実には、「これからの時代に求められる国語力について」で「全ての活動の基盤となる」ものとして挙げられている「教養・価値観・感性等」が関わっていることを意識しておきたい。」この部分に関しては、主査打合せ会で、これまで、伝え方あるいはコミュニケーションの在り方が問題にされてきましたが、そのようなことについて取り上げられるとき、よくある意見として、伝え合いの技術とか方法ではなくて、伝え合う中身、内容が薄っぺらになっているのではないかというものが見られました。

その辺りを意識して、もちろん内容も大切なのだということを入れて、そのときに、既に文化審議会が答申として示している「これからの時代に求められる国語力について」の答申の中にある「教養・価値観・感性」—この答申では国語力の中に含めているんですが、それを引っ張ってきてここに置いたということです。

そのほか、細かい言葉の調整はありますが、特に前回の議論を受けて、新しい変更というのは今御説明したとおりです。

○沖森主査

ありがとうございました。では、冒頭から5ページまでについて、質問も含め自由に

御意見を頂きたいと思えます。ただ、タイトルにつきましては、後ほど別に時間を取って協議したいと思えますので、そのほかの部分について、具体的な修正案や、更に検討すべきところなどがあれば御意見をお聞かせいただきたいと思います。

○関根委員

3ページの「◇伝え合う内容そのものが問われる」について、1行目に「伝え合う内容そのものの厚み」とあるんですが、「伝え合う内容そのものやその厚みや深さ」の間違いですか。そのもののことを言っているわけだから、それ自体と厚みや深さ、味わいかと思ったんですが…。

○沖森主査

ほかにはありませんか。特に新たに加わった3ページ「◇伝え合う内容そのものが問われる」というところに注目していただきたいと思えます。（→挙手なし。）

では、続いて「Ⅱ」に参りたいと思えます。「Ⅱ 分かり合うためのコミュニケーション」（6ページ～12ページ）について、引き続き御意見を頂きたいと思えます。まずは事務局から修正のポイントを説明していただき、その後で意見交換をお願いいたします。

○武田国語調査官

それでは、まず7ページを御覧ください。7ページ二つ目「◇注意や助言を受ける機会を逸している」は新しく加えた項目です。言葉に対する寛容さを欠いているということについて、今まで、伝え合いについて課題を抱えている人たちに対しての寛容さがないというニュアンスが強くあったかと思うんですが、その寛容さをひっくり返して考えてみれば、素直にアドバイスを受け入れたり、教えられるような関係を築いたりといったところが十分に書かれていなかった面があるのではないかとの御指摘がありました。そこで、このような部分を加えております。読み上げます。「一方で、相手が親しい友人である場合を除くと、人から立ち入られたり、人に対して立ち入ったりすることを避けたいと考える人は多い。注意や助言を受ける機会が少なくなり、耳が痛いような事柄を言われたときに、うまく受け止められなくなっているという指摘もある。特に、言葉遣いについては、誰かに直接注意や助言をすることに、慎重である人が少なくない。教わる側に学ぼうとする姿勢がなければ、適切な助言を得ることは難しい。耳を傾けるべき貴重な指摘を受ける機会を失っているおそれがある。」こちらは助言を受ける側、アドバイスを受ける側の観点で加えております。ここが新しいところですよ。

見出しが変わっているところがあります。まず7ページの三つ目の「◇」ですが、前回までは「自信を持って伝え合うための語彙力をどう身に付けるか」でしたが、今回は伸び伸びと伝え合うことができない、伝え合うことに萎縮してしまうという理由の一つとして、語彙力の不足があるということがもう少し分かりやすくなるように、「自信を持って伝え合うための語彙力が身に付いていない」という見出しにしています。

それから、前回御指摘があった「語彙」という言葉の使い方ですが、今回大幅に修正しています。「語彙」というのは、言葉のあるグループと言いますか、一つの集まりとしての使い方なるべくとどめるようにして、単純に「言葉」ということで置き換えられるようなものは、なるべく「言葉」に置き換えるようにしています。まだ不十分なところはあるかもしれませんが、前回に比べると「語彙」という言葉は少し少なくなっているのではないかと思います。

9ページ下の(2)です。「人の言葉には優しく自分の言葉には厳しく」というタイトルでしたが、御提案があった「大らかに受け止め前向きに取り組む」に置き換えて入

れてあります。それから、9 ページの一番下の「◇」ですが、「ほかの人」という表現は、ここでは「他者」と直しております。

10 ページ、上から三つ目の「◇」ですが、前回まで「敬語は大切だが全てではない」という書き方でしたが、「万能ではない」と直しております。

11 ページ、一番上の「◇話し言葉、書き言葉それぞれの特徴を踏まえる」の中ほどになりますが、「話のポイントを明確にするとともに、伝える順序を工夫し、意味が取りやすくなるようにしたい。」どちらかという、記号の使い方であるとか、句読点の使い方、そのようなことが中心に書いてあったんですが、ポイントを明確にして順序をはっきりさせるということが加わっています。

12 ページ、一番上の「◇」です。「考えや気持ちをはっきり言葉にする」という見出しでしたが、「考えや気持ちを必要に応じてきちんと言葉にする」に変更しました。それから、アサーション (assertion) の考え方をここに反映してはどうかという御意見がありました。単純にきちんと言葉にして言うべきことは言わなくてはいけないということだけではなく、状況によってはあえて言わないという選択肢があるんだということも書き加えております。主な変更点は以上です。

○沖森主査

では、ただ今、説明がありました6 ページから12 ページについて御意見を頂きたいと思っております。特に7 ページの「◇注意や助言を受ける機会を逸している」の部分などについて、特に御検討いただきたいと思っております。

○山元委員

9 ページの「2 分かり合うために」の最初の枕の言葉の1 文目なんですが、「これからの私たちは、どのような態度で向き合っていくことができるであろうか。」とありますが、シンプルに「向き合っていけばよいのだろうか」ぐらいでよいかと思いました。

それから、9 ページの一番下の行「自身の価値観や意見を投げ付けたり」とありますが、私だったら「押し付けたり」にします。投げると怖いような感じもあるのでということを感じとして思いました。

11 ページの下から3 行目「手書きの効能や文化を意識し、その習慣を将来にわたって大切にしたい」とありますが、「将来」は「生涯」で良いかなと思います。言葉のニュアンスの問題ですが、そんな印象を持ちました。

最後、12 ページ上から5 行目「察し合って理解する以心伝心といった考え方に立ち続けることは難しい」とありますが、「立ち続ける」は「頼り続ける」の方がよいかとも思いました。

○川瀬委員

7 ページ「◇注意や助言を受ける機会を逸している」について、文章の順番ですが、「うまく受け止められなくなっているという指摘もある」の後に、前の文章からつながるとすると、「教わる側に学ぼうとする姿勢がなければ」が先の方が、流れがよいと思いました。

耳が痛い事柄を受け止められなくなっているという指摘もある。教わる側に学ぼうとする姿勢がなければ、適切な助言を得ることは難しい。それで、「また」とか「一方」なのか、言葉遣いについて助言をすることにためらう人も少なくないというニュアンスがあった上で、耳を傾けるべき貴重な機会をという方が何となく据わりがよいかと感じました。

○関根委員

内容についてではないんですが、一つの見出しが1段落になるようにそろえたかと思うんですが、長いものに関しては段落を分けてもいいのではないのでしょうか。特に、例えば11ページなんかだと結構長くなっているのので、この辺りは余り1見出し1段落にこだわらなくて段落を分けた方が読みやすいかと思いました。

○沖森主査

読み上げていただいた方が、おかしいんじゃないかということにすぐ気が付くという感じもしますが、時間の都合で読み上げることを省いておりますのでなかなかお気づきにならないかとも思いますが、いかがでしょうか。（→挙手なし。）

では、先に進ませていただきます。

「Ⅲ 分かり合うための言語コミュニケーション」の「1 言語コミュニケーションの四つの要素」（13ページ～18ページ）の部分について御議論いただきたいと思います。まず先に説明していただいた上で意見交換に移りたいと思います。では、説明お願いいたします。

○武田国語調査官

前回、この四つの要素について、それぞれ五つの観点、さらに、確認事項（チェックポイント）ということでもっとたくさんの確認事項がありました。それから、確認事項の語尾が疑問形になっていましたが、そのようなものが重く感じられるといった御意見がありましたので、少しさっぱりとした形に直しております。

14ページからを御覧ください。「正確さ」、「分かりやすさ」、「ふさわしさ」、「敬意と親しさ」がそれぞれ1ページで収まるように、観点は五つ、それから、観点ごとのチェックポイントについては、今日は三つずつでお示ししています。

これはこれで非常にさっぱりした、すっきりした感じがあると思うんですが、ただ、主査打合せ会の中では、三つに限定することで落ちてしまう部分などもあるであろう、場合によっては部分的に増える、三つにこだわらずに増やすところがあってもいいのかもしれない、あるいは要素によっては、今五つに分けている観点を三つにして、それでチェックポイントを五つにするというやり方もあるのではないかと、そのようなお話もありましたが、今日の段階では五つの観点、そして、三つのチェックポイントという形になっています。

それから、前回の国語課題小委員会で挙げた課題として、発信の問題と受信の問題について、どちらかだけがあったり、両方挙げられているものがあったり、そこがそろっていないという御意見がありました。なるべく発信と受信を意識した形に書き直しておりますが、全てうまくいっているわけでもないのので、ここはもう少し書き直したらよいのではないかと、いった御助言を頂ければと思います。

さらに、これは当たり前ではないかという受け取られ方をするのは非常に残念であるという御意見もありました。なるべく情報としてお徳感があるといいという御発言でした。「あ、そうだよな。」、「なるほど、そうか。」と、思っていただけのような事柄をできればそろえたいと思います。その辺りももしかしたら書き方一つで変わるものもあると思いますが、まだ十分ではないかもしれません。このようなものは落として、もっとこのようなものを入れたらいいのではないかと、ここはここのように変えたらよりお徳感が出るのではないかと、いった御意見を頂きたいと思います。

また、今回、参考資料1を御用意しました。御覧ください。Q&Aの内容が、四つの要素、五つの観点、三つの確認事項とどのように関係しているかというものを拾い上げたものです。御覧いただくとお分かりになるとと思いますが、表にある「○」が左の上から右の下に流れていくようになっております。

前回の御意見の一つとして、まずに四つの要素がぼんと出てくるのはどうなのかという御意見がありました。今回はそのままにしてありますが、流れとしては、全体、それから、「正確さ」、「分かりやすさ」、「ふさわしさ」、「敬意と親しさ」という流れになっています。

Q & Aとの関係ですが、ここを見ていただくと、それぞれの対照が見られるようになっています。最終的に形が固まりましたら、Q & Aの番号がその観点のところにそれぞれ書き加えられるような、観点について見たときに、それについてはこのQ & Aのページを見ればよいということが分かるように、ウェブサイトではリンクを張るとか、そのような工夫をしたいと考えています。

一方、現在のQ & Aの中にこの観点を十分に拾えていない部分が幾つかあります。一つは、13として挙げている、情報の正確さということ。これは「正確さ」の4番目、「情報に誤りがないか」。引用するときのルールとか、それから、誤った、又は、偽った情報を見分けるとか、そのようなことについてQ & Aで書いているところがないので、このようなものは加える必要があるかと思っています。

同様に、「分かりやすさ」の4番目「聞いたり読んだりしやすい情報になっているか」。ところどころ間をあけるなど、書かれているんですが、まとめて、例えば文字の大きさやレイアウトなどについてQ & Aで答えているようなところが現在のところありませんので、このようなものは加えられればと考えています。

このように今回は、四つの要素、五つの観点、三つの確認事項について、Q & Aとの関係をお示しできるようにしました。

それから、これはまた後で時間を取っていただきますが、概念図をどうするかという問題もあります。13ページを御覧ください。概念図の位置の話が主査打合せ会の中で話題になりました。一つの考え方は、四つの要素が出てきたところですぐに概念図を示すというのが効果的ではないか。もう一つは、18ページになりますが、全ての要素、観点、確認事項を見ていただいた後で、概念図をここに持ってくるという考え方もあるだろうと。今日は案1、案2としてお示ししました。どのような概念図を示すかということについては、また別に時間を取っていただいております。

以上、四つの要素に関する変更点を説明しました。

○沖森主査

それでは、13ページから18ページに当たる部分で、イメージ図、概念図のデザイン及びその位置につきましては後ほど別に時間を取って御意見を頂くことにして、まずは質問も含め御自由に意見をお聞きしたいと思います。

○川瀬委員

最初の13ページのところですが、四つの要素を太字にしてあって目立つようになっているのはいいんですが、冒頭から文章がすごく長いという印象もありました。ですので、下から7行目「言葉のやり取りを支え、言葉の使い方に反映されていると考える。」までを文章にして、その下を箇条書きで、「正確さ」、「分かりやすさ」、「ふさわしさ」、「敬意と親しさ」と並べて、右横に説明を付けるといった、四つが並んだ形の方が視覚的には分かりやすいと感じました。

後半の確認事項の例に関しては、非常に見やすくてすっきりしていていいなと思っています。以上です。

○山元委員

先ほど事務局説明にありましたが、15ページからの「□」の名称をチェックポイント

トとおっしゃっていたと思うんですが、確認事項よりチェックポイントの方がよいかと私も思って聞いておりました。

○沖森主査

では、四つの要素に関する概念図の説明を頂いて、それも含めて意見交換していただく中で、改めてお気づきの点がありましたら、御発言をお願いします。

参考資料2にまとめていただいた概念図案について、まず事務局から御説明お願いいたします。

○武田国語調査官

概念図案ですが、前回お示ししたものが参考資料2の1ページ目の上にあるものです。これについてはいろいろな御指摘を頂きました。特に吹き出しの部分、先ほどのチェックポイントが書いてありますが、これはこのままでは読みにくいということがありました。それから、吹き出しの部分は落としてしまった方がよいという御意見もありました。

そのようなことを踏まえて、主査打合せ会で図柄などここにはないものも含めていろいろ御検討いただいたんですが、四つの要素が重なり合うような形がよいだろうという意見がございました。どのように重ねるかということがあるわけですが、例えば四つの円を重ねるとなると、重なる部分がなかなかうまく取れなかったりするので、楕円を使うとか、その後、ハート形を使うとか、あるいは花びらのような形を使うとか、そのようなことを検討して、ここに示しています。

今回、入部委員から、2枚目、3枚目に当たる四つの概念図について、御提案いただきました。当初、例えば「分かりやすさ」と「正確さ」は対立する面があって、「分かりやすさ」を重視すると「正確さ」の方が少し犠牲になるというようなことがありましたので、一方の方が膨らんだときには片方がしぼむとか、そのような動きのあるものが作れたら本当はいいなということがありました。それを止まった絵でどのように表すかということを経理でも考えて、例えば4枚目にある、てんびんのようなものを作って見て、動きがあるような、バランスを取っているような様子を出すとか、そのようなことも考えました。今一つ動きと言いますか、ダイナミズムといったようなものがうまく表せないところがあります。それで是非、何かこのような図を使ったらいいのではないかとといったことを御意見があれば頂戴して、事務局の方で更に考えたいと思っています。

今日は、観点を一緒に並べるかどうかということは置いておいて、どのような絵柄だとよりいいものになるか。また、今回、入部委員から御提案を頂いておりますので、その趣旨などもお聞きしながら、図柄について御意見を頂ければと思います。

○沖森主査

では、ただ今の説明にありました、2ページ、3ページ目を御提案くださった入部委員に、この案の説明も含めてまず御意見を頂きたいと思います。

○入部委員

重なり合うのが難しい、パワーポイントだと難しいと思います。液晶タブレットを使って、元々自分で手描きしたものを加工しました。虹が付いているのは、分かり合うとか、コミュニケーションというようなニュアンスをどこかに出したいなということで、輪で虹を付けました。できるだけ平面的ではなくて、少し奥行きのあるような感じの図柄の方が優しく見えるんじゃないかということで少し工夫をしてみました。以上

です。

○沖森主査

それでは、各委員から御意見を頂きたいと思いますが、ここにあるもののうちから、本日どれか一つに決めるというのではなく、より良いものにするためにまずお知恵を拝借したいと思います。

○川瀬委員

デザイナーに頼むという案はないのでしょうか。美的センスであるとか、この概念を形にしたいというのは、また頭の使いどころが違うように思います。難しいいろいろな条件はあるかもしれませんが、御提案申し上げたいと思います。

また、報告書類として、この部分だけ、概念図だけカラーにするというのはできるのですか。カラーで御提案が来ておりますが。当然印刷するときになったら、このページがカラーになるということは対になるページもカラーになるのかなど、まずそこを伺っていいですか。

○武田国語調査官

冊子については残念ながら白黒になってしまうと思います。

ですから、色合いも、白黒になったときにある程度見分けられるような色合いにさせていただくということになると思います。ただ、多くの方がウェブで御覧になると思います。当然ウェブではカラーでお示しすることになります。

○川瀬委員

デザイナー、専門家をお願いする件については。

○武田国語調査官

予算の問題があるんですが、今、パンフレットなどについて検討しています。その中で、前向きに検討してみたいと思います。

ただ、デザイナーの方に全部お願いしてもいいんですが、もしもここである程度、このようなイメージが欲しいということ具体的に頂けるとお願いもしやすいのかと思っております。はっきりしたお答えができませんが、前向きに検討はしてみたいと思います。

○川瀬委員

そこいかんで、この場でどこまで話し合うべきなのかというのは変わりそうに思います。

○関根委員

ただ、デザイナーに頼むにしても、例えば、クローバーのなんかとてもいいと思いますが、こんな感じのものをと言うと、費用的に大分抑えられるんじゃないかと思いません。一からじゃなくということもあるかなと思います。

○川瀬委員

カラーじゃないという可能性を考えると、色を変えるという考え方よりは、使うとしたらグラデーションだと思います。花びらとか四葉のクローバーとかという具体的なイメージを持たせるものを大まかな形として設定すべきかどうかというのは一つあると思うんですが、ざっくりしたイメージとして、丸とか楕円を四つに切ったものの

中に「正確さ」，「分かりやすさ」，「ふさわしさ」，「敬意と親しさ」が入っていて，それぞれの間がグラデーションで色が変わっているという感じがよいと思います。

丸があって，文言が四つ入ります。中央の部分が濃くなるようにして，外へ行くに従って白くなっていく。端っこの部分に関しては真っ白が全部見えるような状態，真ん中だとそれぞれが混ざり合って濃い色になっている状態みたいなもの。飽くまでも概念図なので，これを見てきっちり何か分かる必要はないのかと思います。何となくこのようなイメージを考えました。

○沖森主査

幾つかの観点があるかと思いますが，例えばデザインそのものがどんなものであるかということと関わって，吹き出しを入れる，入れないとか，あるいは概念図の案1に入れる場合と案2に入れる場合とでは多少概念図も違ってくるかなということもありますので，その辺りも含めまして何かお考えがあればお聞かせいただきたいと思います。

○山元委員

もしプロのデザイナーさんに頼むとしても，コンセプトのようなものは提示した方がいいと思います。それで，このようなコンセプトが必要だと思うことを申し上げます。グラデーションで真ん中に芯の濃いところがあって，だんだん薄くなるというイメージです。コミュニケーションの要素は四つの要素が凝縮してコミュニケーションができたんだという，そのようなイメージが必要ということ。それから，クローバーのもののように，「分かりやすさ」や「正確さ」というのは絡み合っているもの，相反する，分離，セパレートのものではなく，絡み合っているところがあるというのが二つ目のコンセプトです。あと，4枚目のバランスを取り合っている天びんですね。四つの要素がバランスを取り合っているんだということも，作るときのコンセプトにしようかと思います。以上三つはいかがでしょうか。

○鈴木委員

概念図はあった方がいいんですかという気もします。川瀬委員がおっしゃったように，13 ページを箇条書きにするとしたら，頭で箇条書きして，その後，14 ページから一つ一つについて，五つの観点と三つのチェックポイントと説明すれば，それで十分かと思います。

というのは，こうやって案をお示しいただいて，このようにやりますと，やっぱりデザインによっては一つ一つが独立した要素と取られかねない。それはそうじゃないんだ，混ざり合っているんだということだと，例えばクローバーなどのデザインはよいと思うんですが，でも，先ほども出ましたように，相反した要素になりかねないポイントがあるわけです。「分かりやすさ」と「正確さ」とか，「ふさわしさ」と「正確さ」とか，いろいろ各要素があるポイントでは本当にバランスが必要である。つまり，対立的な概念として見られてしまうところもあると思うので，概念図として出すのが，非常に難しいような気がします。

今さらこんなことを言って申し訳ないんですが，私はむしろない方がいいのではないかという気もします。ある程度箇条書きを本文中で示していくわけですから，それでよい気がします。

○川瀬委員

図の位置について，もし入れるとしたらですが，やっぱり後ろかと。説明してきて何となく一杯見てきた後で，もう一回さっとイメージできるようなものがあった方がよ

いと思います。でも、確かに鈴木委員がおっしゃるように、苦勞する割にはどれだけの効果があるんだろうというのも確かに思うところではあります。

○鈴木委員

私もどっちに入れるのかということで考えた場合、一般的には説明のすぐそばに入れた方がよいと思いました。

おっしゃる意味はよく分かります。ところが、そこで入れると、先ほど申し上げたような、果たしていいのかなという疑問が生ずる。だから、川瀬委員がおっしゃったように後ろにという考え方も成り立つんだろうなと思いました。

○入部委員

例えば若い人に読ませる場合に、本当は挿絵があった方がいいぐらいなのですが、全くないのは寂しいなど。ただ、文化庁の広報キャラクター「ぶんちゃん」を使うわけにいかないというお話なので、挿絵的かというと、また概念図の意味合いとは違うんですが、やはり目で楽しめるものがあるというのは冊子体としては必要かと思います。文ばかりだと、例えば大学生ぐらいだと、目を休めるところがないというか。ちょっとほっと一息できるものが、ちょうど真ん中あたりにページがありますので、ないよりはあった方がいい。ただ、非常に正確な概念を示したものではないので、誤解を生んでしまうという懸念はあります。吹き出しなどを入れたりして、その辺は言葉でできるだけ正確に伝えるようにしてはどうかと思います。

○関根委員

最初のところを簡条書きにするのはよいと思うんですが、そうすると、14 ページからのリード文の部分とほとんど同じになってしまいます。最初に簡条書きがあって、すぐこっちに来てしまうので、繰り返しになってしまいます。それを避けるにはどうしたらいいかと考えていたんですが、例えば概念図を最初に入れて、吹き出しみたいな形で短い説明をちょっと入れる形にすると、ダブリ感が少しは解消されるかなと。そのような図の使い方もあるかと思いました。

もう一つ、クローバーはとてもいいと思ったんですが、要するに、カラーと白黒と両方ということになるわけですね。できれば、例えば一番上は「正確さ」と「ふさわしさ」が濃いグリーンで、「分かりやすさ」と「敬意と親しさ」が明るいグリーンになっているんですが、「正確さ」と「分かりやすさ」をペアにして、「敬意と親しさ」と「ふさわしさ」をペアにする色分けの方がいいかと思いました。

あと、細かいことですが、左端が重なっているので、「正確さ」の上のところと重なっている形になるわけです。「ふさわしさ」の上に「分かりやすさ」がちょっと重なっていて、「敬意と親しさ」の上に「ふさわしさ」が重なっていて、だから、「正確さ」が「分かりやすさ」の上にちょっと重なる形にデザイン的にはなるかと思います。

○石黒委員

どちらにするかはいろいろ一長一短だと議論を聞きながら思っていました。もし図を入れるであれば、「概念図の位置 案1」のところとクローバーの絵があって、それぞれ「正確さ」、「分かりやすさ」、「ふさわしさ」、「敬意と親しさ」という、14 ページから 17 ページのところまで 1 ページに 1 枚ずつ、4 枚の葉がある。特に 1 枚の葉に色が付いている感じになっていると、4 枚の葉がそろってコミュニケーションが成立するんだなというようなイメージはできるかなと思いました。

○川瀬委員

好みの問題だとは思いますが、抽象形にするのか、具象形にするのかは、人によって好き嫌いもありそうなのですが、余り意味を持つような形じゃない方がよいように思います。○なり、△なり、□なりにする。

もちろん花びらが集まって花ができる、葉っぱが集まって四つ葉のクローバーが出来上がるというのも非常に心優しくてすてきなコンセプトだと思います。ただこの報告書全体のトーンと合うかどうか、私の中ではしっくりこないというのが、個人的な意見です。

○石黒委員

おっしゃることは、確かにそうだなと思って伺いました。もし予算が許せば、デザイナーに両方作っていただきたい。反対に言うと、もし、概念図というほどでもないのかもしれないかもしれませんが、挿絵のレベルで考えるとすれば、具象形にせよ抽象形にせよ、やっぱり何かこの四つがあって、それがそれぞれ四つのパートに分かれてというイメージがあります。これはそれほど差し障りがないような、御異論がないような感じがします。なので、いろいろなものを作っていただくとまた膨らむので、予算が許すのであれば是非お願いします。

○森山副主査

私は図表がある方が、分かりやすく、親しみやすくなると思いますが、そのような点で一つ戻りますが、「分かりやすさ」の15ページのところの、どこに入れるかは悩むんですが、必要に応じて図表などを盛り込むといった項目も入れた方がよいと思います。その一つの実践例として、何となくほんわかするようなものがあるといいかと思いました。

カラーのことで、虹色ですが、LGBTなどまた別の意味合いがあるので、虹はやめた方がよいかと思いました。

○関根委員

何かイラストも入れられる方向かとおっしゃっていましたが、恐らく今の状態でこれだけぼんと入ると、多分イメージとしてすごく違和感があると思います。どんな形であれ、ほかにも絵的なものが入るのであれば、もしかしたらここにあると、なじむこともあるのかと思います。

○武田国語調査官

まだきちんとお約束できないんですが、デザイナーの方、プロの方にお願いできそうなのところもあります。今たくさん頂いた御意見をまとめて、そのような方向で考えたいと思います。イラストなども使えるような形にしたいと思っております。

○山元委員

その前のチェック項目のことについて、先ほどは事前に送っていただいたものを見て言ったので、今回頂いたものに関して気付いたことをお伝えします。

15ページになりますが、「分かりやすさ」の2行目の読点が、「やり取りする情報、考え、気持ちなどを、相手と歩み寄りながら、言い換えたり」と、ここの読点が多いと思います。つまり、「情報、考え、気持ちなどを」が一番大きい、間のある読点で、「相手と歩み寄りながら、言い換えたり、たとえを使ったりして」と、どのように表現したらいいのかわからないんですが、係り受け関係が分かりにくいと思いました。

それから、「分かりやすさ」①の「□ 話題に関する相手の知識や興味・関心、情報処理の速さや容量…」、この「情報処理の速さや容量」というのが急にでてきます。教

育工学的なものになっているので、ここは、相手の理解の速さとかそのような言葉の方がより一般的なのではないかと思いました。

16 ページ「ふさわしさ」の「④ 伝え合う対照とその範囲や性格を意識し」の後で読点を打った方がいいかと思いました。

同じ④の三つ目の「□」の「…互いにとって支障のない媒体…」、これは支障がないというか、都合のよい、もうちょっと適切な言葉があるのかと思いました。

それから、⑤の三つ目「□ 言葉や言葉の使い方遣い…」、これは「言葉遣い」でいいですね。

○関根委員

冒頭におっしゃったように、非常に当たり前なことはやめて、もうちょっと具体性のあることをとおっしゃっていましたね。だから、そのような観点からもう一回読んでいるんですが、もう少し検討したいと思っています。

例えば「(1) 正確さ」の「②言葉のルール…」の最初のところ「□ 適切な語彙を選択するよう意識している。」というのは、当たり前というか、その後の二つに比べると具体性がない気がします。例えば「辞書で定められた意味や用法から極端に逸脱しない」などはどうでしょうか。何かそのぐらいの具体性があつた方がいいかと思うんです。ただ、それをチェックポイントとして載せるかどうかは、検討が必要だと思います。

それから、「(3) ふさわしさ」のところの①と②が苦しいです。「②目的に調和した…」が分かりにくいです。考えていくと、気持ちの方に行ってしまうがちなので。②の一つ目「□ 互いを不用意に傷付けるような話題を避けている。」も、気持ちの方に寄った言い方になっています。例えばもっと具体的に、「特定の人をおとしめたり、傷付けたりするような話題を避ける」といった書き方もあるかなと思いました。いずれにしても「目的に調和した」というのを私も考えてみたいと思います。

あと、受信と発信と両方配慮して書かれているのはよく分かるんですが、例えば「①互いの気持ちに配慮した…」の「互いの気持ち」ということについて、自分の気持ちに配慮したというのはどのようなことなのか。

三つ目の「□ 相手に配慮するだけでなく…」というのは、大前提となる話ですから、むしろこれを自分の気持ちということで書くのであれば、例えば「相手の反発や反論を恐れずに自分の気持ちを伝える」という言い方になるのかもしれない。果たしてそのような言い方でいいのかどうか、またそのようなことがここにあるのかどうかということも気になっています。

○石黒委員

14 ページの②ですが、このようなものを読みなれているというか、言葉の研究をしている方はお分かりだと思いますが、「主―述・修飾―被修飾・並列・接続」の midpoint が分かりにくい。読む人はもしかして「述・修飾」とか、違う塊で読んでしまう可能性があるがあるので、気を付けた方がいいかと思います。

すぐ下の「□ 漢字、仮名遣いのルールに従い、…」の「従い」は、実は二つの意味に取ることができます。間違った理解としては、漢字、仮名遣いのルールに従って、句読点や記号を適切に用いていると読めてしまうんです。多分その意味じゃないと思うんですが、そこは気を付けた方がいいかと思います。

それから、15 ページ④の一番下「□ 一文を短めにするとともに、不要な省略を避けている。」で、「ともに」と言うのであれば、不要な語をうまく省略できているということを重ねるのではなく、短くする方向だったら短くする方向が重なった方が「ともに」と言えるかと思いました。

16 ページ⑤の一番下「□ 言葉や言葉の使い方遣い…」というのは意味が分からないので、ここは修正する必要があるかと思えます。

17 ページ②の真ん中「□ 「召し上がる」、「伺う」、「参る」などの敬語語彙や定型句を使っている。」は、多分良い意味だと思うんですが、ほかのものは例えば「適切な」とか「適切に」とかそのような修飾語があり、これは良い選択ですよということを教えてください。しかし、ここはどっちか分からないので、もしかしたらありきたりな定型句を使っていて、良くないとも読めてしまうので、一言修飾語が必要かと思いました。

○沖森主査

では、次に移ります。続きまして、Ⅲの「2 様々な言語コミュニケーション」（19 ページ以降）の部分について、まず修正のポイントなどを説明していただき、その後、御意見を頂きたいと思えます。

○武田国語調査官

それでは、Ⅲの「2 様々な言語コミュニケーション（Q&A）」のところについて、どこが変わったかということをお説明いたします。参考資料1を併せて御覧ください。

配布資料2のQ&Aですが、前回までと並びを多少変えております。そして、前回までなかった項目が二つ加わっています。それから、50 ページを御覧ください。滝浦委員にQ32と33を御執筆いただきました。この部分、長くなっておりまして、1 ページに収まっていない状態です。ここは、もう1項目Q34を追加して、二つのものを三つに展開したいと考えております。

そうすると、まだないQ13と21、そして、この34ができますと、全体で35ページのQ&Aということになります。

前回少し曖昧な言い方をしていましたが、Q&Aというこの形式を取っていくのかどうかということについて、多少検討の余地があるのではないかと申し上げましたが、これまで御執筆いただいたものを生かして、Q&Aの形式のままで、これをベースとして今後中身を詰めていただきたいと思いますと思っております。また大変勝手ながら、例えば御執筆いただいたものの中で外来語が使われているところを事務局で調整したり、具体例なども多少こちらで置き換えたりなど、調整させていただいております。

ほかの委員の方がお書きになっていらっしゃると思いますので、意見を言いにくいところもあるかもしれませんが、全体を通してここはこうなったらもっとよいのではないかと、この部分は膨らませるといいのではないかなど、具体的な御意見を頂戴できると大変有難いです。

○沖森主査

では、質問も含め自由に御発言いただきたいと思います。修正すべき点、更に検討すべき点がございましたら、御指摘を頂きたいと思えます。

○川瀬委員

Q1が、ここまで読んできた後だと、内容としてすごく既視感があります。特にその一つ前に四つの要素が語られた後ですので、そこで改めてQ&AのQ1にこれが来ていいんだろうかと。特に専門家と非専門家のお話も前の方に出てきて、お医者さんと患者さんの話も出てきます。もしかしたらこれは四つの要素の前のところに「もう少し深く」とか「視点を変えて」を入れこんでもいいのかと思えました。

一方で、それでもQ&Aから読み出す方もいらっしゃるでしょうから、そのような方のために、全ての基本であるという意味で改めてここでQ1として出してもいいの

かなとも思います。ただ読んできたときに、あれ、この話さつきなかつたかなと思って前のページを読み返したのは事実です。

○武田国語調査官

今の御指摘の点ですが、前回の国語課題小委員会の場でもそのような御意見、例えば最後に持っていった方がいいんじゃないかといったアドバイスを頂いたりもしました。ただ、ここに置いてあるのは、川瀬委員がおっしゃったように、Q&Aから読む方が結構いらっしゃるのではないかとということが理由です。繰り返しになるのであれば、なくてもいいという御意見もあると思いますし、後ろに回すとか、どこかに紛らせるとか、いろいろなやり方があると思うんですが、この点について、是非御意見を頂ければと思います。

同様に、参考資料1を御覧いただくと分かるんですが、例えば「正確さ」の概要として1ページ、「分かりやすさ」の概要として1ページ、「ふさわしさ」の概要として1ページ、「敬意と親しさ」の概要として1ページと、四つの要素それぞれにもページを取っています。これも例えば全部まとめて最初に持ってくるとか、あるいは最後にするとか、いろいろなやり方があると思います。今まではⅢの2の(1)、Ⅲの2の(2)という感じで分けていましたが、それはやめて、全部同じように見えるようなQにしています。これについては目次などで、どのような意図で並んでいるのかなどよく分かるようにしたいと思っておりますが、その並びとか、あるいは概要をもう一回示すのはどうなのかといった辺り、御意見頂ければと思います。

○山元委員

Q1の既視感、どうしてもう一遍というのを克服、改善するために、Q1を「言語コミュニケーションの四つの要素と書いてありましたが、具体的に教えてください」というように変えたらどうでしょう。ここは事例がたくさんあるので、そのようにしたらどうかと思いつきですが考えました。

○秋山委員

全体を読みまして、とても分かりやすく、最初の18ページのところまで読み進めることができました。Q&Aというところからは大変膨大な量だったので、私のような者は疲れてしましまして、自分の興味のあるところを見ていこうと思った次第です。これがどう使われるかという、必要に迫られてQ&Aから入る例も多いと思います。

それから、コミュニケーションということをしちんと知ろうとすると、最初から読んでいくと思うので、Q&Aが始まる前、ここからは、今まで書いてきたことについて様々な言語コミュニケーションを実際のQ&A形式で示します、というような、違う窓、扉のようなものを入れておくとよいと思います。ここからもう一回繰り返されていることもあるけれども、Q&A形式で分かりやすく言っているんだなということが分かるのではないかと思います。

そうすると、目次をたどってみると、ここもよく整理していただいている、大きなI番、II番、III番のところには2項目ずつ並んでいて、形がとてもいいのですが、今の私の案だと、それを崩してしまうことになってしまいます。ただ、ここから読む人もいるだろうと考え、ここからはQ&Aで、分かりやすく書いてありますよという発信をされたらどうかという提案です。

○石黒委員

26ページと27ページを見ると、「もっと深く」というのがありますが、29ページなどは「さらに深く」となっています。これは何か区別があるのでしょうか。

○武田国語調査官

そのようなところはそろえたいと思います。

○石黒委員

それに関連してもう一つ。例えば 20 ページを見ると、「データを見る」と書いてあって、もちろんデータは入っていて納得はできるんですが、表がありません。データはどこにあるのかと思う一方で、例えば「もう少し深く」の中でデータが入っているものもあって、この辺りもそろえられた方が多分見る方は読みやすいかと思います。

○福田委員

参考資料 1 できれいにまとめていただきましたので、よく分かりました。これを見ますと、やはり左上から右下に ○ が変遷している方が分かりやすいのかなと思いました。「正確さ」の方が最初の方であって、「分かりやすさ」がその次で、「ふさわしさ」がその次みたいな形に配置していると分かりやすいと思います。

そうすると、4 番、5 番、6 番、7 番辺りが「ふさわしさ」のところに ○ がたくさん付いているように見え、特に 4 番、5 番です。そうすると、打ち言葉とか、伝え合いへの不安というのは、もうちょっと後ろに入っている方が理解しやすくなるのかなというか、見やすい感じがあるのかなと思います。

それから、「正確さ」1-1 とか 1-2 というのをカウントしたところ、一応 △ も 1 点みたいにして見ると、「分かりやすさ」の 3-3 だけ抜けています。これはどこかに入れた方が、Q & A と前の四つの要素と合うのかと思います。具体的な場になると、ここが重要だということにはたくさん ○ が付いているものになると思うのですが、少なくとも何も付いていないものがないようにするとよいと思います。「分かりやすさ」の 3-3 は、情報が整理されているかということなので、それもどこかに組み入れられると面白いかと思いました。

そのような意味で「正確さ」の概要を全部 1 個ずつ入れていくというのは一つの案だとは思いますが、もしかしたらこの概要を入れてしまうと、逆にそこで話が止まってしまうかもしれないと思いました。なくてもきれいに配列されていたらそんなに違和感はないと思います。私も Q 1 を最初に持ってきて、全体の四つの要素を質問化するという山元委員の御意見に賛成です。Q 1 の質問をちょっと変えると、全体が書いてあるというのが分かり、この順番で何となく話が進んでいるなというのが分かるかなと思いました。

○川瀬委員

47 ページ Q 29 です。ほかのところに入っている図とかデータは、それぞれ「国語に関する世論調査」の結果だったり出典が分かるもの、言葉で書いたものを図にしているものだというのは分かるんですが、この Q 29 の表はどこから来たものでしょうか。

○武田国語調査官

これは田中委員が作ってくださったものです。当初は、これは Q & A ではなく、II 章のところでのこのようなことをまとめるということを考えていました。それで 47 ページにあるものよりもかなり詳細な表を作っていただきました。それを少し簡単にしてこのような形で直していただいたというものです。ですから、何か根拠があるというよりは、むしろここで作ったものが一つの新たな整理として発信されるというものになると思います。

○川瀬委員

「◎」と「○」と「△」が全部、「当てはまる」の程度の違いです。「△」は、「○」でも「×」でもないのです、場合によるという評価なのかと思います。そう考えると、「電子メール」の「携帯メール」の「同時的か」の欄が「○」でいいのか。また、「PCメール」,「携帯メール」の「双方向か」の欄は「○」でいいのか。疑問です。これは「△」なんじゃないのかと思います。

これは、それこそ受け止め方にもよるのかもかもしれません。そもそも「媒体を選ぶときには、どんなことに気を付けるとよいでしょうか」というクエスチョン自体がありなのか。どのような方が御覧になるのかによって、どのような質問が必要なのかにもよってくると思うんですが、どれを選んだらいいですか、何に気を付けたらいいですかという質問に対して、「非言語情報を使えるか」のような項目が出てくるちぐはぐさがあって、専門性と一般性が混在しているように感じました。

その「◎」,「○」,「△」の、「特に」と「当てはまる」と「やや」の違いは何なんだろうとかいうのが、オフィシャルな文書として文化庁から出すときに、これでオーソライズしてしまっているのでしょうか。大変失礼な言い方ですが。そうだよねというところもあれば、いや、そうじゃないんじゃないのというところも感じました。

○やすみ委員

一つ提案ですが、Q3のところ、これは語彙力を増やすことについてのお話になっています。「もう少し深く」の中でその答えとして、国語辞典を活用しましょうということが出てきますが、もう一つ、類語辞典をお示しするのもいいのではないかなと感じました。というのは、下から6行目「人の話を聞いたり、本を読んだりして、使えそうな言葉に出会ったときは、心に留め、国語辞典などで確かめ、頭の中の引き出しにしまっておく、そんな積み重ねが語彙を増やしていくでしょう」という辺りは、日頃句を詠む毎日を送っている私にとっては、本当にそのとおりと納得するところです。ここに語彙を増やすということ言えば、もう一つすごく味方になるのが類語辞典だと日頃からつくづく感じていて、周りの川柳や俳句をこれから始める人にもよくお勧めしています。そうすると、皆さん、「あ、類語辞典というものがあるんですか」と結構知らない方が多いので、ここで言ってあげると、語彙を増やすということに関しては、国語辞典よりはもしかしたらダイレクトに役立つ場合もあると思うので、どうかと思いました。

○山元委員

ちょうど今の部分で感じたことがあったので付加します。21ページの「もう少し深く」の最後の文なんですが、「…個々の言葉そのものだけでなく、文全体の中で考えてみる習慣を付けたいものです。」という文が、いつも話すことばかり考えているので、文章のことだったのかというようにちょっとだけ違和感を覚えました。

話す、聞くことの場合においても、もう少し状況にふさわしい語彙を使おうというニュアンスが、文章に限定しないで書ければいいと思いました。

○沖森主査

よろしいでしょうか。（→ 挙手なし。）

それでは、ここで一旦打ち切らせていただいて、配布資料2についての検討はここまでといたします。

この配布資料2は、「仮題」というところから始まっていますが、このタイトルについて、引き続き意見を交換していただきたいと思います。前回の国語課題小委員会で

頂いた御意見を基に、参考資料3を本日お示ししてあります。できれば本日一定の方向性を出していきたいと考えております。この点について、まず事務局から説明をお願いします。

○武田国語調査官

それでは、参考資料3に基づいてお話し申し上げます。ここに三つのものが並んでおります。これはそれぞれ前回の国語課題小委員会で頂いた御意見を並べたものです。

まず副題なしのシンプルなタイトルにするか、それとも副題を付けるかという問題が一つあります。そう考えると、例えばここに挙がっているもの、主タイトルと副タイトルの組合せというのはいろいろなものが考えられる。例えば「分かり合う言語コミュニケーション」の後に何か副題が付くということもあるのかもしれませんが、下二つの副題を入れ替えるということもあるかもしれません。いろいろな考え方があると思うんですが、まず一つは、主タイトルだけにするのか、副タイトルを付けるのかということがあります。

それから、これまでずっと「分かり合う」ということをキーワードにしているということもあって、「分かり合うための言語コミュニケーション」が仮タイトルになってきました。この「分かり合う」の部分を副題に落として、例えば「これからの敬語」とか「これからの時代に求められる国語力について」という答申がこれまで出ておりますので、それを踏まえて「これからの」という言葉を使うのも一つの考え方ではないか思います。それから、これまででない、「改めて考える」という言い方もあるのではないかと考えました。このような御意見を頂いておまして、それを三つ並べています。

1点だけ、副題に関しては、「常用漢字表の字体・字形に関する指針」を出したときには、やはり副題を付けるという案もあったんですが、引用されるときに副題があるとややこしくなるということがあって、副題を避けたという経緯もございました。ただ、今回に関しては、そこにこだわることなく御意見を是非頂ければと思います。この三つに限りませんが、もし今日可能でしたら、ある程度方向性を出していただければと思っております。

○沖森主査

この場で大体意見が一致するようであれば、その案で今後まとめていきたいと思っております。しかし、本日はそこまで決めるというのではなく、一旦この場の議論を主査としてお預かりして、改めて1月の国語課題小委員会で最終的にはお決めいただくかと考えております。

では、タイトルについて、御自由に御意見を頂きたいと思えます。副題を付ける、付けないというのは、恐らく主の方と従の方との関係もありますので、どちらも含めてお考えいただき、御自由に御意見を頂ければと思います。

○川瀬委員

やっぱり短い方がいいんじゃないでしょうか。三つ目の案になってくると、もう意味するところが大き過ぎてしまって、タイトルを読んだだけでちょっとしんどいぞという感じがあります。「これから」シリーズというものがかつてあって、これからも増やしていくのであれば、「これから」シリーズでもいいのかもかもしれません。ただ、これだけであれば、一番上のものが一番シンプルで心に響くのかと思います。

「これから」シリーズは、現在二つ出ているんでしょうか。何も副題に「分かり合う」を持ってくる必要があるのか。シリーズ化していくのであれば、学習参考書にある、すぐできる〇〇シリーズとか、これで安心〇〇シリーズみたいにして将来的にやっていけばいいと思うんですが、そのような感覚がないのであれば、何も前例に倣っ

て本来伝えたいことを副題に持っていかなくてもいいのではないかと思います。現状のことだけしか考えていない意見ですが、以上です。

○沖森主査

これまでの経緯で言いますと、「伝え合い」という言葉を「言語コミュニケーション」に置き換えたというのを踏まえまして、新たにこのタイトルをお考えいただいているわけですが、「分かり合うため」というのと「言語コミュニケーション」というのは、これもかぶらないとも言えないという気もしますが、いかがでしょうか。

この場で一定の方向性を決めたいと思っておりますので、是非とも御意見を頂きたいと思えます。

○鈴木委員

私も、「分かり合うための言語コミュニケーション」というのが一番端的に表していると思います。これは私の会社の話で恐縮なんですけれども、本のタイトルを決めるときに、かなりの率で最初に案として出たものが大体そのままで行くことが多いです。だからというわけではないですけれども、これが一番端的に表しているんじゃないかと思えます。

○関根委員

私も沖森主査がおっしゃったように、「分かり合う」と「コミュニケーション」がかぶるんじゃないかと考えていたんですが、よくよく考えると、外来語のコミュニケーションのイメージが、やっぱり意思疎通というところにとどまっていて、なかなか相互理解とかそこまで「コミュニケーション」では表せないという部分があると思えます。ずっと伝え合いというのに我々がこだわっていたのはその辺かなとも思っています。「分かり合う」というのを付けることによって相互理解というニュアンスまで表せて、これはこれでもいいんじゃないのかと思えました。

○入部委員

私がかぶっているかと思っていたんですが、「分かり合うためのコミュニケーション」だったら完全にかぶっていると思うんですが、「言語」をかませているので、何も言わなくても分かり合えるよねという中において、言語を使ってきちんと伝え合いましょうとなる。「言語」が入ることによってまた違うものになっていると思えますので、一番上の案がよいと思えます。

○石黒委員

少しだけ揺さぶってみると、「分かり合うための言語コミュニケーション」と言うと、ほかに「戦うための言語コミュニケーション」とか、「○○するための言語コミュニケーション」があるのかなとも受け取れるので、例えば「分かり合える言語コミュニケーション」とかいう手もあるかなとは思いました。でも、別に「分かり合うための」で悪いとは思いません。

○沖森主査

前回の国語課題小委員会では、滝浦委員が「これからの」というのもいいのではないかと推していらっしやった記憶がありますが、それも含めましていかがでしょうか。今日いらっしやらないので「これからの」派が弱いようにも感じますが。

○関根委員

「これからの」は、最初はいいと思いました。「これからの敬語」がちょっと頭にあったもので、あれが 20 世紀の言語コミュニケーションだったら、今度は 21 世紀のこれで、「これからの言語コミュニケーション」。それは「これからの敬語」というのを知っていればです。知っていて、非常に思い入れがある言い方ではあるんですけども…。

○川瀬委員

「これからの」というのはすごく万能ではありますが、今回時間を掛けて協議をしてきたのは、この時代からこそこの意味のコミュニケーションだと思うのです。多様化とか情報化というものを踏まえた今だからこそこのコミュニケーションなので、それを「これから」に置き換えてしまうのはどうかというのがあります。ただ、「これから」シリーズを読んで、「あ、なるほど」と思われた方が、「お、今度は新しいのが出た」と手に取ってくださるのであればいいかと。

ただ、いずれにしてもタイトルは、一口目を食べてみたいためのものだと思うんです。それで考えると、やっぱり三つ目は、もうタイトルだけで既におなかいっぱいな感じがするので、シンプルな方がよいと思います。

○秋山委員

「分かり合うための言語コミュニケーション」が私自身はよいと思うんですが、「これからの」という言葉が付くと、何か今まで言っていたコミュニケーションということが少し違う視点で述べられているのかな、じゃ、読もう、注目しよう、ということはあるかもしれません。

○塩田委員

私もやっぱり一番上が前回と同じく一番いいと思っているんですが、もしキャッチーにしたいというならいくらでも方法はあると思います。「分かり合いたい人ための言語コミュニケーション」とか、「言語コミュニケーション 僕たち分かり合おうよ」とか。だけど、そうしなくていい気もします。

○川瀬委員

「これで安心」とか。本当は、言いたいのは、「よく分かった」みたいな、読んだ人の感想がタイトルになっているような、「なるほど納得 言語コミュニケーション」みたいなもの。でも、それだとハウツー本になってしまいます。安っぽく見えてしまうかというのもあります。

番組のタイトルなんかはよくあるんです。見た方の気持ちを全面に出して、「そうだったのか、〇〇」とか「これで完璧 〇〇」というのもあるので、ついそっち側から考えてしまいました。

○福田委員

私も第 1 案を推したいと思います。副題がない方が何かと便利かなという意見です。

○沖森主査

方向性だと大体、最初の案を推すという方が多いように見受けられますが、いかがでしょうか。特に反対というわけではないんでしょうけれども、もう少し考えた方がいいんじゃないかというような御意見はございますでしょうか。今日御欠席の方もいらっしゃると思いますので、本日は決定というところまでは行かない方がよいのかなとも思いますが、大体の方向性は決めたいと思います。

○関根委員

三つ目の案は落としておいていいんじゃないですか。

○沖森主査

そうですね。では三つ目の案は落とすということで。取りあえず総意というところまでは行きませんが、大多数の意見として「分かり合うための言語コミュニケーション」という、これを第1候補にしたいと思います。

この場は主査としてお預かりをして、改めて1月の国語課題小委員会で最終的に決めいただくという方向で進めてまいりたいと思います。

では、この概念図案等も含めまして本日の協議について言い足りないことがあれば、是非とも最後をお願いします。

○塩田委員

出遅れて済みません。今まで、チェックしてしまして時間が掛かってしまいました。Q & Aについてです。一つは、Ⅲの2のところ、それぞれのクエスションの目次が見たいと思います。探すのにすごく時間が掛かったので、この全て、34問の目次が冒頭かここかどちらかに欲しいと思いました。

もう一つ具体的な話です。Q2は元々私が書いたものですが、後ろ3分の1ぐらいが新たに付け加えられています。多分どこかの版で付いていたのはあったんでしょうが、多分付けられた時点で私がもう自分のものじゃないと思っていたところがあって気付かなかったのかもしれない。もし元執筆者として言わせていただけるのであれば、ちょっと直したいところが幾つかあります。具体的に言うと、1字下げしてある、「・相手が受け止めやすく…」以降が、全部私の文言ではないんです。多分、事務局で付けてくださったと思うんです。

例えば「私は反対です」について、私だったらこのような言い方はせずに、「私はちょっと別の観点から御意見申し上げようかと思えます」という言い方をします。

次は、「御期待くださるのは大変うれしいのですが、私にはできません」というのは、私もあんまりここまではっきり言わない方で、「うれしいのですが、現在の状況では難しいのが実情です」とかです。

次、「目標が低すぎるんじゃないか」については、「君ならもっと高い目標を立てても大丈夫だよ」とかです。

最後は、「もう一度お考え直してください」というのは、言葉で言いにくいと言っているの、音声かと思うのですが、「もう一度お考え直しただけないでしょうか」というように思いました。

これもいろいろ意見があると思うんですが、私だと、「私は反対です」について、前に何を付けても多分私は同じような気がするの、いろいろな言い換えを考えてみた次第です。何かありましたら、また是非お声掛けください。

○武田国語調査官

今、塩田委員から、また先ほど秋山委員からも御提案がありましたが、Q & Aに入りやすくするように工夫をしたいと思います。今の章立てを崩さなくても何かする方法があるように思いますので、目次と言いますか、一覧があつて、それで、新たなところに入っていくというのがよく分かるような形を工夫したいと思います。

もう1点ですが、これは確認させていただきたいんですが、一般的にこのようなものを国語分科会で出すときには、公用文の表記にきっちり沿って表記します。そうすると、例えば「？」などは使ったりしません。でも、今回はQ & Aの中でそのようなも

のも使えるんですよということが書いてありますので、Q&Aのところに限って、多少枠を外れたものを入れてもよろしいでしょうか。今は入っているのですが、そのようなことも扉のところできちんと断った上で書いていけば、皆さん安心して読んでいただけるのかなと考えております。

○沖森主査

全体を通して及び今後付け足すべき点もございましたら、是非とも御意見賜りたいと思います。本日の国語課題小委員会はこれにて終了ということによろしいでしょうか。では、本日も熱心に御議論くださりまして、ありがとうございました。頂いた意見を踏まえて、主査打合せ会を来年の初めに行います。そこで内容を煮詰めて、次回の国語課題小委員会で改めて御検討いただきたいと思います。引き続きよろしく申し上げます。

また、今年最後の国語課題小委員会となりました。年末のいろいろとお忙しい中、御出席いただきまして、誠にありがとうございました。それでは、本日の国語課題小委員会、これで閉会といたします。